

2026 年度 尚絅学院大学 総合型選抜（Ⅱ期）〔探究学習型審査 事前学習課題〕
心理・教育学群 学校教育学類

【探究学習（事前学習）のテーマ】

部活動の地域連携・地域移行（地域展開）について

これから、だんだんと、休日の部活動（公立中学校）は学校単位ではなく、地域クラブ活動として地域で実施するようになります。「子供のスポーツ機会を守る」、「地域の子供は、学校を含めた地域で育てる」ことが主な狙いです。子どもたちの成長や学びを学校の枠だけで考えるのではなく、地域の多様な大人や団体、その環境全体で支えていこうという考え方です。

テーマにある、部活動の地域連携とは、複数校でまとまって一つの部活動とする合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用することにより、あくまで学校で運営・実施しつつも、生徒の活動機会を確保するものです。部活動の地域移行（地域展開）※1とは、地域の多様な主体※2が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するものです。学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。

※1 今回の試験において、「地域移行」と「地域展開」は同義語として扱い、以降「地域移行」のみの表記とします。

※2 ここでいう主体とは、地域クラブ、文化団体、NPO 法人、自治体、地元企業等のことです。

【事前資料】

スポーツ庁「令和5年度 運動部活動の地域移行等に向けた実証事業事例集『はじめに』」（令和6年8月）より

中学校等（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中等部を含む。）の運動部活動は、これまで生徒のスポーツに親しむ機会を確保し、自主的・主体的な参加による活動を通じて、達成感の獲得、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するとともに、自主性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきました。

また、学校教育の一環として、人間関係の構築や自己肯定感の向上などの教育的意義だけでなく、問題行動の発生抑制、学校への信頼感・一体感の醸成等にも大きく貢献してきました。

一方で、深刻な少子化の進行により、中学校等の生徒数の減少が加速化し、運動部活動は持続可能性という面で厳しさを増すとともに、競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担となっています。学校における運動部活動を取り巻く厳しい状況に関しては、国会や中央教育審議会等においても指摘されてきており、文部科学省としても、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」（令和2年9月）において、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする」と示したところです。

令和3年10月には、有識者による「運動部活動の地域移行に関する検討会議」を設置し、

地域における子供たちのスポーツ環境の整備方策等の具体策が議論され、令和4年6月に提言が取りまとめられました。これを踏まえ、スポーツ庁として、少子化の中でも将来にわたり生徒がスポーツ活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について示した、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を同年12月に策定・公表しました。本ガイドラインでは、令和5年度から7年度までを「改革推進期間」として位置付け、休日の部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととしています。(…以下省略)

【事前学習課題】

1. 生徒が中学校等で運動部活動を行う意義（重要性）について、事前資料の内容に基づきまとめてください。
2. 中学校等の運動部活動の地域移行が検討されることになった背景について、事前資料の内容やウェブサイト等を基に調べ、まとめてください。
3. 事前資料にある地域クラブと部活動の違いは何でしょうか。また、地域移行によって、生徒にはどのようなメリットが期待できるでしょうか。これまでの運動部活動の課題（問題点）などを踏まえて、資料やウェブサイト等を基に調べ、まとめてください。
4. 地域移行を実施するにあたり、課題と考えられることは何でしょうか。人材（指導者など）、お金（活動費、自己負担など）、活動場所などの観点より、資料やウェブサイト等を基に調べ、まとめてください。